

# #冬きみ

3.10 Sat

## すべての人が、この映画の罠にハマる。 すべてが伏線。1秒も目を離せない傑作サスペンス

予定調和を一切許さない展開。緻密に張り巡らされた伏線の先に待ち構える驚愕の結末。芥川賞作家・中村文則さんの傑作「去年の冬、きみと別れ」が最高のキャスト&スタッフのもと、ついに映画化された。3月10日(土)からの全国ロードショーを前に、原作者の中村文則さん、お笑い芸人で小説家の又吉直樹さん、乃木坂46の高山一実さんが本作の見どころと魅力をたっぷり語り合ってくれた。



ピース／お笑い芸人・小説家  
**又吉 直樹さん**

またよし・なおき／1980年大阪府生まれ。高校卒業後、NSC東京校へ入学。綾部祐二氏とお笑いコンビ「ピース」を結成し、人気を博す。芸人の傍ら執筆した小説「火花」で第153回芥川賞を受賞、17年に映画化された。最新作「劇場」が好評発売中。



小説家「去年の冬、きみと別れ」原作者  
**中村 文則さん**

なかむら・ふみのり／1977年愛知県生まれ。2002年「鉢」で第34回新潮新人賞を受賞しデビュー。「土の中の子供」で第133回芥川賞、「抱擁（スリ）」で第4回大江健三郎賞など数多くの賞を受賞。そのほか「教団X」「R帝国」など著書多数。

「原作を読んでいても  
ダメされる強者サスペンス」

**又吉** 僕は全部、ダメされました。  
**中村** うそや（笑）。いくら何でもそれは純粹、素直すぎるじゃん。

**又吉** 本当ですよ。僕は原作のファンで内容も知ってるはずなのに、「この後、こうなんのかな」と思ったことが一つも一致しなかった。途中から原作のことほすっかり忘れて（笑）、ただただ、すごいものを今観ているんだということしかなかったです。

**高山** 私も中村作品のファンで、原作は読んでいました。でも、冒頭から驚き、すぐ映画の世界に入り込んで感情移入し、目が離せなかったです。

**中村** 原作は、小説だから成立するトリックや伏線を用いているので、映像化は不可能だと言われて。でも脚本を読んだ時「この手があったか」と驚き、心底感心しました。映画ならではの變更を加えつつ、作品の核は見事に据えている。映画人たちのプライドと気概を感じましたね。

**又吉** 僕も脚本がすごいと思いました。この映画は多くの罠や謎を散りばめているわけですが、単なる謎解きものではないので、鑑賞後に残る感情が一つの成分ではないんです。特に後半から何とも言えない悲しさ、やるせないさもあった……。

**高山** 登場人物は皆、深刻な感情や暗い部分を抱えているし、次々大変なことも起こるのですが、観終えた後、なんかスッキリしたんですよね。  
**又吉** 分かる。なんか不思議な解放感みたいなのがありましたね。

「監督の撮り方と役者たちの演技に圧倒される」

**高山** 展開もスリリングで速いから引き込まれるんでしょうね。  
**中村** だけど、実は状況説明はすごく丁寧。分かりやすいんです。

**又吉** うかうかしちゃられないんですよ。主人公耶雲と百合子の恋愛シーンがほほ笑ましくていいなあと一瞬思ったのに、その15秒後には予想外の展開になって「えっ……」って驚かされる。でもそこには、ご都合主義的なものや矛盾が一切ないんです。その感覚は中村さんの小説に通じるものですよ。

**中村** 僕は脚本を読んでいるからどうなっていくか分かっているのですが、それでも違うところで映画に引き込まれているから、ダメされているような気になります。監督の撮り方と役者さんの圧倒的な演技力によるものですね。

**又吉** 役者さんの表情によって場面が変わっていく、という感じもありましたね。顔見知りの役者さんが出演されているのですが、皆さん、今までにない表情を見せてくれています。

さん、今までにない表情を見せてくれています。

**中村** 会話だけで伝えようとするとか、分りづらい複雑な状況や心境を、ちょっとした目の動きなどの表情や仕草で伝えてくれる。岩田剛典さんの役作りも見事でした。

**高山** 私は山本美月さん。元々美しい方ですが、妖艶さが引き出される瞬間があって、その変容にシヨックを受けつつ見られてしまいました。

**中村** それと映像がまた素晴らしい。監督が映像美にもこだわったとおっしゃってました。

**又吉** それはすごく感じました。カメラマンの木原坂のスタジオに置かれた椅子もカッコ良かったです。細かい所まで観てる（笑）。風景や建物、小道具に至るまで選ば抜かれていたよね。

か。きっかけを教えてください。

**中村** 本格的にミステリーを取り入れようと思ったんです。小説の可能性を追求したかった。テーマは「人間の欲望」。その源は何なのかや、一線を越えると人とはどうなってしまうのかなど、書きたいことがたくさんありました。恋愛の要素も含めて。

**又吉** 人間にはいろんな要素がある。悪者だってただ悪いだけじゃないし。中村さんの小説はそういう一人ひとりの複雑な感情を丁寧に描いているので、読みながら自分の内面とすごくシンクロして好きなんです。今回の映画もそう描かれているのはただの憎しみではなく、そこに愛があるからたまらない。愛を感じるから、どの登場人物も突き放せないんです。

**高山** 私はプラスアルファの感情がいっぱい湧き上がってくる映画だと感じました。

**中村** 難しい映画ではないのに、深いものが残る。しかも映画の魅力とメジャー性、そして文学性までも成立させています。

です。デートで観たら、その後の会話に困らないはずですよ。

**高山** 私も同感です（笑）。それと、この映画を観る前と観た後では、同じ風景がちよつと変わって見える感じがしました。登場人物と自分の経験が重なることはないんだけど、ふと我が身を振り返り、今の生活ができている自分に対し、何かしら感じるものが、観た人すべてにあるんじゃないかなと。

**又吉** そういう風に人の感情を動かせる映画って本当にすごいですね。  
**中村** これを観て「映画っていいな」と思ってくれる人が増えるといいな。僕自身、もっと邦画を観ようと思いました。

**高山** そうですね。乃木坂46のメンバーにも映画好きが多いので、「ダメされる」に100勝するぐらい面白いくらい絶対観て！」って宣伝します。ていうか、私自身が早くメンバーとこの映画の話をしてたくて仕方がないんです。一度観ているのに公開が本当に待ち遠しいです。



乃木坂46／歌手・タレント  
**高山 一実さん**

たかやま・かずみ／1994年千葉県生まれ。乃木坂46の第1期生。乃木坂46としての活動のほか、ソロでバラエティー番組にも多数出演。2016年4月から雑誌「ダ・ヴィンチ」誌上で小説「トラベジウム」を連載中。乃木坂46最新シングルは「いつかできるから今日できる」。



## 去年の冬、きみと別れ

### 3.10(土)全国ロードショー

fuyu-kimi.jp

今を逃したら、これほどの満足感とともにこの映画を観ることはできない。

—— 小説家 羽田圭介さん

この作品の一番の価値は、根底に流れるテーマにある。

—— 漫画「金田一少年の事件簿」原作者 天樹征丸さん

恋はやはり期待するからこそ裏切られ、信じるがゆえにダメされる、そんなことを思い出させてくれる映画。

—— メンタリスト DaiGoさん

**STORY** 彼女を奪われた。猟奇殺人事件の容疑者に……。結婚を間近に控える記者、耶雲（岩田剛典）がスクープを狙うのは、猟奇殺人事件の容疑者である天才カメラマン、木原坂（斎藤工）。世間を騒がせたその事件は、謎に満ちたまま事故扱いとされ迷宮入りとなっていた。……

岩田剛典 山本美月 斎藤工・浅見れいな 土村芳／北村一輝

原作：中村文則「去年の冬、きみと別れ」（幻冬舎文庫）

監督：瀧本智行 主題歌：m-flo「never」（rhythm zone / LDH MUSIC）

配給：ワーナー・ブラザース映画 ©2018映画「去年の冬、きみと別れ」製作委員会

原作



累計30万部突破！  
絶賛発売中！

幻冬舎文庫  
460円(税別)

映画ビジュアルブック



あなたが知らない  
岩田剛典がここに！  
絶賛発売中！

幻冬舎文庫  
730円(税別)

